

最新の建設技術を体験 北鷹高生が道路工事見学



ドローンの操作を体験する秋田北鷹高の生徒＝北秋田市の今泉IC近くの工事現場

建設業への理解を深めてもらおうと、高校生を対象にした道路整備工事の現場見学会が、北秋田市と上小阿仁村で開かれた。自動車専用道路と国道の計3カ所を見て回り、重機や機器を操作して最新技術の一端に触れた。

秋田北鷹高校緑地環境科の1年生18人が参加。本年度中に開通予定の日本海沿岸東北自動車道（日沿道）二ツ井今泉道路では、能代市の小繋インターチェンジ（IC、仮称）側から入り、北秋田市の今泉ICに近い盛土工事の現場を見学。能代河川国道事務所や施工業者の担当者から、工事の概要や使われている技術について説明を受け

た。生徒たちはバックホーやドローンを操作し、情報通信技術（ICT）を使った施工を体験。金田叶翔さん（16）は「バックホーはAI（人工知能）も使って、タブレット端末の画面で距離などを正確に測ることができ、操作が分かりやすかった。将来はこういう仕事に就いて、地元の力になれたらと思う」と話した。

見学会は11月12日に実施。このほか、県北秋田地域振興局が発注した北秋田市阿仁幸屋渡の国道105号幸屋渡工区と、上小阿仁村沖田面の国道285号で、盛土や掘削の現場を見学した。

（小松田直嗣）